

NEWS RELEASE

光半導体素子の生産能力を増強
新貝工場、新1棟完成
竣工式は3月30日

2017年3月29日
浜松ホトニクス株式会社
本社：浜松市中区砂山町 325-6
代表取締役社長：晝馬 明(ひるま あきら)

当社は、光半導体素子の後工程（組立・検査工程）の生産能力増強を目的として、後工程専用量産工場である新貝工場の敷地内に新1棟を建設していましたが、このたび完成し、5月から稼働を開始します。新1棟の稼働により、需要が高まっているX線非破壊検査装置、自動車、産業機器などに向けた受発光素子の生産量増加に対応していきます。

竣工式は、3月30日に執り行います。



当社は、IoT（Internet of Things）時代に向けて提唱されている「トリリオン・センサー社会」（毎年1兆（トリリオン）個のセンサを活用する社会）への対応として、需要が拡大している光半導体素子の後工程の生産能力を増強します。「トリリオン・センサー社会」では、産業機器、自動車、ヘルスケア、農業、通信、社会インフラなどに多種多様なセンサを付加し、センシングしたデータを社会や生産、生活に役立てるという狙いがあり、今後も各種センサの需要拡大が期待されています。

当社では、先端光技術の開発に取り組み、さまざまな市場にセンサとしての光半導体素子を供給しています。近年では、不可視（X線検出）画像、自動車、ヘルスケアなどの用途において需要が拡大しています。また、センサ需要の拡大と共に、センサの実装体積を最小化する傾向となっており、薄型・小型・軽量の製品が求められてきています。さらには小型・軽量でありながらも高信頼性の製品が求められています。

新1棟では、こうした要求に応えるためX線非破壊検査装置や、衝突防止・自動エアコン・自動ライト・自動ワイパー・車内光通信など自動車関連に向けた受発光素子、医療機器向けのMPPC[®]（Multi-Pixel Photon Counter）、ヘルスケア向けセンサなどの生産を行います。また大量生産を前提とした生産ラインでは、チップオンボードパッケージ・プリモールドパッケージ・フリップチップパッケージなどの組立および検査を行い、それらに適合した装置を設置します。新1棟完成により、既存の3号棟と合わせた新貝工場全体の生産能力を、月産400万個から月産1,000万個に増強します。

新1棟は、新貝工場の将来の拡張計画を視野に入れた建物構造となっており、事業継続計画に基づく地震及び水害対策やLED照明や断熱などの省エネ対策など環境対策も取り入れた工場となっています。

新貝工場では旧1号棟（管理棟）と3号棟（製造棟）の2棟が既に稼働していましたが、新1棟に管理機能を統合し、老朽化が進んでいた旧1号棟を撤去します。これにより、新貝工場全体の災害対策を強化し、事業継続力の強化を図っていきます。

竣工式などの詳細につきましては以下の通りです。

<竣工式>

式典名称 浜松ホトニクス株式会社 新貝工場 新1棟 竣工式
日 時 2017年3月30日 (木) 午前10時00分～
場 所 静岡県浜松市南区新貝町1128 新貝工場 新1棟4階

<新1棟概要>

建物名称 新貝工場 新1棟
建築場所 静岡県浜松市南区新貝町1128 新貝工場 3号棟南側
建築工期 2016年4月着工、2017年3月竣工
稼働予定 2017年5月
建物面積 建築面積 2,659㎡、延床面積 9,342㎡
施設構成 1階 受付、組立工程 (クリーンルーム クラス10,000)
2階 組立工程 (クリーンルーム クラス10,000)
3階 製品検査・梱包工程
4階 食堂、会議室、製造事務所
総工費 約28億円
収容人員 約300名
生産品目 光半導体素子
生産能力 月産600万個

以上



新貝工場 新1棟 外観

この件に関するお問い合わせ先
■報道関係の方 浜松ホトニクス株式会社 広報室 野末迪隆
〒430-8587 浜松市中区砂山町 325-6 日本生命浜松駅前ビル
TEL053-452-2141 FAX053-456-7888 E-mail:nozue-m@hq.hpk.co.jp
時間外は、携帯電話 080-8262-0374 へお願いします